



警告のニューズレター「角笛」

発行日:2016年3月発行(第71号)

発行:警告の角笛出版

価格:フリーペーパー

角笛 HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

◎巻頭メッセージ:「再臨の日の2種類の弟子たち」 エレミヤ

◎証:「土曜日の集会で教えていただいたこと」 E3

◎お知らせコーナー:「本の紹介」「日曜礼拝&HPのご案内」

[巻頭メッセージ]

「再臨の日の2種類の弟子たち」

by エレミヤ

[聖書箇所]ヨハネの福音書 21:18-23

21:18 まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」

21:19 これは、ペテロがどのような死に方をし、神の栄光を現わすかを示して、言われたことであった。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」

21:20 ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、「主よ。あなたを裏切る者はだれですか。」と言った者である。

21:21 ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ。この人はどうですか。」

21:22 イエスはペテロに言われた。「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりが

ありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」
21:23 そこで、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に行き渡った。しかし、イエスはペテロに、その弟子が死なないと言われたのではなく、「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。」と言われたのである。

<終末には2種類の弟子がいる>

今回は、再臨のキリストに会う2種類の弟子たちとして、このことを見ていきましょう。私たちが終末の日、聖書に記されていますように、艱難時代を経過するとして、その日はどのような日になるのでしょうか?そのことを見ていきたいと思うのです。テキストに沿って見ていきます。

18 まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」

再臨の日の2種類の弟子たち エレミヤ

この箇所は、主ご自身がペテロやヨハネの人生を預言している箇所です。しかし、聖書は神の知恵により書かれた書であり、表の意味だけではなく、裏にも文字の書かれた書です。裏の意味合いもあるのです。裏の意味合いとしては、ペテロ、ヨハネという個人にとどまらず、終末の日における弟子たちの運命を預言したものだとして理解出来ます。なぜ、そう言えるのか？と言うと、**「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても」**として、主の再臨の日に関して述べられているからです。

21:19 これは、ペテロがどのような死に方をし、神の栄光を現わすかを示して、言われたことであつた。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」

主のことばによるなら、その日、主の再臨の日には、2種類の弟子がいることが分かります。そのひとつは、ペテロのように殉教をする弟子です。ペテロに関する預言、**「しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」**とは、明らかに彼の殉教を預言することばだと理解出来ます。

21:20 ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、「主よ。あなたを裏切る者はだれですか。」と言つた者である。

21:21 ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ。この人はどうですか。」

21:22 イエスはペテロに言われた。「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」

さて、もう一人の弟子がいます。それは

ヨハネです。そのヨハネに関して、主は殉教に関しては全く述べていません。逆に、**「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望む」**として、主の再臨まで生きながらえるということさえ述べています。もちろん、2000年前の人であるヨハネが主の再臨の時まで生きながらえる、ということは現実的にはあり得ません。しかし、彼、ヨハネは型であり、終末の艱難時代を経てなおかつ生きながらえて再臨の主に会う弟子の型なのです。

21:23 そこで、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に行き渡つた。しかし、イエスはペテロに、その弟子が死なないと言われたのではなく、**「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。」**と言われたのである。

ここでも再度、**「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望む」**との主のことばが繰り返されています。ですので、聖書は、このこと、キリストの再臨の日まで生きながらえる弟子がいることをさりげなく、しかし繰り返して強調していることが分かります。



殉教するペテロ、そして主の再臨する日まで生きながらえる弟子の型であるヨハネ

再臨の日の2種類の弟子たち エレミヤ

ですので、この聖書箇所からの学びはこのことです。すなわち、終末の日の艱難時代の中で殉教する弟子もいるが、しかし、艱難時代を経て、なおかつ生きながらえて主の再臨に遭遇し、主に会う弟子たちもいる、そのことが教えなのです。

<テサロニケ書にも再臨の日には、2種類の人々がいることが語られている>

さて、このこと、主の再臨の日に2種類の人々がいることは、じつはテサロニケ人への手紙にも書かれています。以下の箇所です。

[聖書箇所] I テサロニケ人への手紙 4:13-18

4:13 眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。

4:14 私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずですよ。

4:15 私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。

4:16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラツパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、

4:17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

4:18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

この箇所を見ていきましょう。

4:13 眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。

この箇所の後のほうには、「**主が再び来られるとき**」として、主の再臨に関する記述があります。ですから、このテキストの箇所も、主の再臨の日を扱ったものなのです。そして、ここでは、眠った人々、具体的には艱難時代に殉教する人々に関して語られています。殉教は命を失うことなので、悲しいことのはずなのですが、パウロは、「**他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです**」と語ります。殉教を悲しむ必要はない、と語るのです。なぜでしょう？

4:14 私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずですよ。

その理由は、それらの殉教者が死んでいる間はわずかな間、長くても3年半の艱難時代の間であり、その後、キリストの再臨の時、これらの殉教者はよみがえり、キリストと共にやって来るからなのです。ペテロのように殉教する弟子もいるが、それらの人々は速やかによみがえり、再臨のキリストと共にやって来るのです。

4:15 私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。

さて、その日、もう1種類の人々がいます。それはヨハネのように、「**主が再び来られるときまで生き残っている人々**」です。生き残る、ということばが暗示的です。

再臨の日の2種類の弟子たち エレミヤ

獣の国や反キリストは艱難時代の中で、正しいクリスチャンを絶滅しようと試みるのですが、しかし、主の助けにより最後まで、主の再臨の日まで生き残るクリスチャンがいるのです。彼らは光栄なクリスチャンです。しかし、主のために命を捨てた殉教者（死んでいる人々）に優る栄誉を受けるわけではありません。それが、「**主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。**」とのことばの意味合いです。

4:16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、

主の再臨の日には、まず、「**キリストにある死者**」すなわち殉教者がよみがえります。

4:17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと一っしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

さて、最後まで生き残っていた人々に関しては、少し特殊なことが起こります。すなわち彼らは生きたまま、雲の中に引き上げられ、空中で主に会うのです。すなわち最後まで生き残っていたヨハネのような人々はその日、死を経験しないのです。具体的には、その体は突然栄化されるのです。

<生きたまま栄化されること>

このことをパウロはコリント人への手紙でこう述べています。

〔聖書箇所〕 I コリント人への手紙 15:50-54

15:50 兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。

15:51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。

15:52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

15:53 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです。

15:54 しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」とするされている、みことばが実現します。

この箇所を見ましょう。

15:50 兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。

私たちが最後の日まで生き残ったとしても、今私たちが持っている血肉の体でそのまま神の国を受け継ぐわけにはいきません。なぜなら私たちの今の肉体は老化し、劣化するものであり、寿命があるので永遠には生きられないからです。

15:51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。

ここでも、主の再臨の日の2種類の人々について述べています。それは、奥義なのです。そして、奥義はこう述べます。「**私**

再臨の日の2種類の弟子たち エレミヤ

「**たちはみなが眠ってしまうのではなく**」、すなわち艱難時代の日にすべてのクリスチャンが眠る、すなわち殉教してしまう、というわけではないのです。

「みな変えられるのです。」

そうではなくて、多くは艱難時代の終わりまで生き残り、そしてその日、今の肉体が変えられ、栄化され、そして再臨のキリストに引き上げられる、それが再臨の日に関する聖書的な説明なのです。

15:52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

最後まで生き残った人々は一瞬のうちに、今までの肉体から朽ちないからだに変えられます。そのようにして、はじめて私たちは永遠に生きることが出来るのです。

ですので、これらの聖書箇所が語っていること、またパウロがわざわざ奥義として語っていることを理解しましょう。それは艱難時代を経過してすべてのクリスチャンが殉教する、という考えは間違えだということです。そうでなく、殉教する人もいますが、しかし艱難時代を経て生きたまま主に会うクリスチャンも多い、そして彼らは再臨の日に一瞬にしてその体が栄化される、というこのことです。

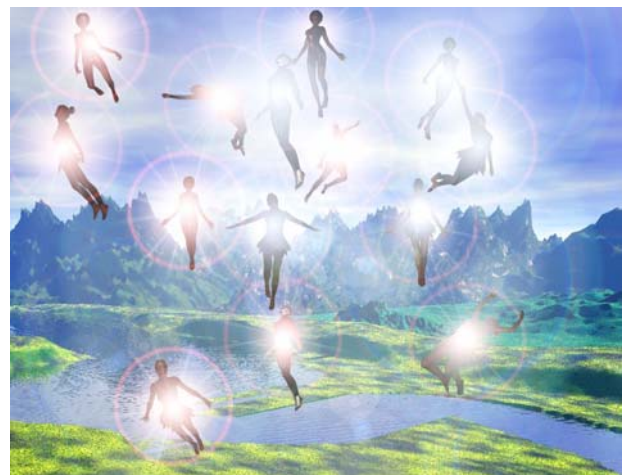
<ダニエル書が暗示する聖徒の姿>

聖徒のすべてが艱難の日に殉教するとはかぎらない、このことはダニエル書を見ても明らかです。ダニエル書の中で、ダニエルもダニエルの友たちも、主のことばに従ったために艱難に会います。これは艱難時

代の型です。ダニエルの3人の友人、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、王の像を拝まないため、火の炉に投げ込まれます。そして3人は焼け死んで終わり、ということが物語の結末でなく、主の介入により彼らは助けられた、ということが結末なのです。

また、ダニエルに関しても、彼は王に祈りを捧げないため、獅子の穴に投げ込まれます。しかし、ダニエルは殉教したわけではなく、逆に神が獅子の口を封じたので、彼は守られ命を永らえた、ということが結論なのです。

ですので、ダニエル書が語っていることは艱難の中で聖徒は殉教する、というメッセージではありません。そうでなく、聖徒は艱難に会うが、しかし最後まで主に頼る者は艱難を経ても守られる、というメッセージなのです。ですので、艱難時代を迎えようとする私たちは主に信頼する、ということ学ぶ必要があるのです。



主の再臨の日、生き残った人々は栄化され、挙げられる

土曜日の集会で教えていただいたこと E3

今回は、一昨年（2014年）6月の土曜日の弟子の歩みの集会で、「主の弟子」に関して、エレミヤ牧師がおすすめされていたことを紹介させていただきたいと思います。聖書箇所はルカの福音書です。以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。

【聖書箇所】ルカの福音書14:25,26

14:25 さて、大ぜいの群衆が、イエスといっしょに歩いていたが、イエスは彼らのほうに向けて言われた。

14:26 「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません。

聖書の中で、群衆と弟子が対称的に書かれています。そして、弟子の歩みにポイントがあります。群衆の歩みの上だと、教会は崩壊してしまうからです。また、群衆の歩みのことを、主は、「砂の上に自分の家を建てた愚かな人」(マタイの福音書7章26節)だという風に言われました。

また、「教会」というのは、弟子の歩みを土台として建てられます。弟子の歩みは、まさに群衆の歩みとは対称的で、「岩の上に自分の家を建てた賢い人」(マタイの福音書7章24節)と書かれています。そして、ここで大勢の群衆がいて、イエスさまは弟子の歩みの声がけをしています。しかし、その条件として・・・主に従うよりも父母（肉親の父母もそうだけれども、信仰の父母である牧師のこともそうです。）が大事だと、キリストの弟子となれない、全う出来ない、ということを書かれています。

つまり、弟子の歩みを志すのはひとつのことであり・・・しかし全うするかどうかは別である、ということを書かれています。こういうことに関しても、主が言われてい

る基準を理解したいと思います。そして、場合によってはキリストのために捨てなければいけないものもある、ということです。

【聖書箇所】ルカの福音書14:27

14:27 自分の十字架を背負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。

ここでは、自分を犠牲にする、ということを書かれています。そして、自分の目標や達成も主に捧げないと、弟子になれない、ということが語られています。

【聖書箇所】ルカの福音書14:28-30

14:28 塔を築こうとするとき、まずすわって、完成に十分な金があるかどうか、その費用を計算しない者が、あなたがたのうちにひとりでもあるでしょうか。

14:29 基礎を築いただけで完成できなかったら、見ていた人はみな彼をあざ笑って、

14:30 『この人は、建て始めはしたものの、完成できなかった。』と言うでしょう。

弟子の歩みと関連して、「塔」のことが出てきます。そして、「塔」を建て始める前に、まず、お金を計算する、ということを書かれています。このことは、弟子の歩みを志したはいいけれども、しかし、完成しない、ということがあることを想定して、このようなことが書かれていると思います。

【聖書箇所】ルカの福音書14:31,32

14:31 また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えようとするときは、二万人を引き連れて向かって来る敵を、一万人で迎え撃つことができるかどうかを、まずすわって、考えずにいられましょうか。

14:32 もし見込みがなければ、敵がまだ遠くに離れている間に、使者を送って講和を求めましょう。

土曜日の集会で教えていただいたこと E3

先ほどのみことばは、一面は「塔」を建てる、「やぐら」を建てる、ということを書かれています。それに関連して、上記みことばでは、敵との戦いについて書かれています。弟子の歩みは良く言えば、「敵との戦いの最前線」なので・・・ゆえに、かっこいいとも言えます。しかし、見込みが無いのなら、敵との戦いなんて言い出さないほうが良い、ということをお話しています。

【聖書箇所】ルカの福音書14:33
14:33 そういうわけで、あなたがたはだれでも、自分の財産全部を捨てないでは、わたしの弟子になることはできません。

「財産」とは、現金や土地だけではなく、目標とかも含まれます。敵は二万人、私たちは一万人、そしてどこかに一万人を残している（出し惜しみをしている）、ということが書かれています。それは自分の父や母や人からの評判とかかも知れません。そういうのをかき集めれば、一万人になる、ということです。しかし、敵はそのあたりを容赦しません。ゆえに、何か大事なものを残していたら、ダメだということです。

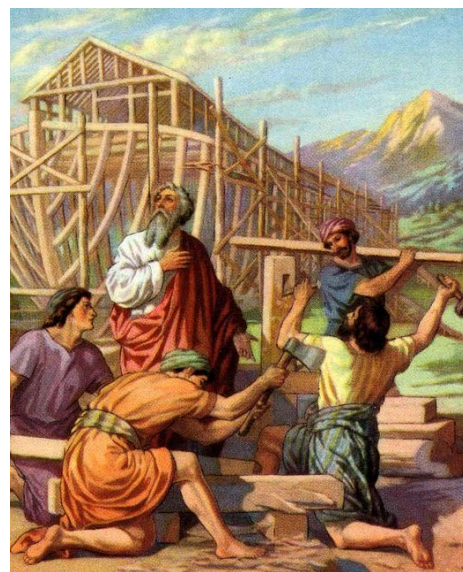
「財産」とは、「持ち物」のことです。主も、あらゆるものを失いました。そして、私たちに対しても、すべてを失ってもやっつけていくのか？の揺るがしがあります。それに関しては、主が模範です。そういう意味で、弟子の歩みは厳しい、狭い門、だと言えます。でも、だからと言って「言い訳」は無用なのです。

もし、弟子の歩みにとどまれないとしたら・・・その理由として「捨てるべきものを捨てられない」という可能性があります。どこかで、「ここだけは」というのがある、ということです。そういう意味では、シビアであります。このことは、能力とは関係

ありません。自分の持っているものをすべて捨てるなら、弟子になれます。たしかに多くの方は、弟子の歩みは出来ます。しかし、どこかで出し惜しみをしてしまうことが問題なのです。でも、捧げるなら受ける恵みは大きい、と言えます。このことに関して、主の前に分け隔てはありません。

リピートしますが・・・それぞれの人に持っているものがあります。敵はそのあたりをよく知っていて攻撃をします。でも、捧げていくときに恵みを与えてくださり、実態を見ていきます。弟子の歩みを途中で終わってしまう人がいます。その要因は、「小手先だけ」であったり、あるいは、「ほんの一部しか捧げていない」可能性があるからだと思います。しかし、みことばに沿って正しく歩むなら恵みがあります。

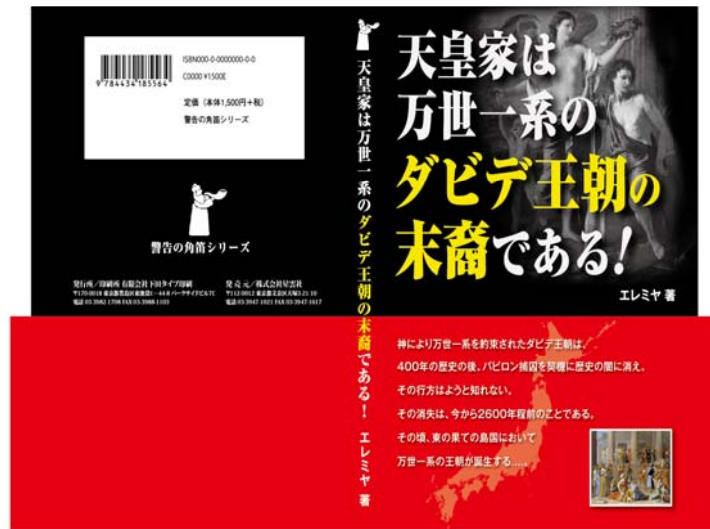
以上のことをエレミヤ牧師がメッセージされていたのですが、「主の弟子」に関して概ねご理解いただけましたでしょうか？よろしければ、このようなことも、ご理解いただけましたら幸いに思います。いつも大事なことを語ってくださる神さまに、栄光と誉れがありますように。



塔を築く

お知らせコーナー

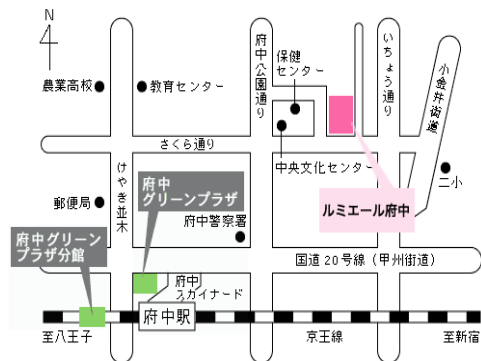
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



● 定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
● 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
● mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
午後 14:00-16:00
場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
(tel:042-360-3311)
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>